

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-770	21-066	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol Consumption and Systemic Hypertension (from the Third National Health and Nutrition Examination Survey)		
アルコール摂取と高血圧 (第3回アメリカ国民健康栄養調査より)		
執筆者		
Aladin AI, Chevli PA, Ahmad MI, Rasool SH, Herrington DM.		
掲載誌		
Am J Cardiol. 2021 Dec 1;160:60-66. doi: 10.1016/j.amjcard.2021.08.033.		
キーワード		PMID
アルコール摂取、高血圧、横断研究		34548145
要 旨		
<p>目的: 多量のアルコール摂取と高血圧との関連については、多くの疫学研究より確立されている。しかし、少量から中等量のアルコール摂取と高血圧との関連については、対立する結果が報告されている。本研究では、アメリカ心臓学会/アメリカ心臓協会 (ACC/AHA)の高血圧ガイドラインによる血圧分類とアルコール摂取量との関連を検討した。</p> <p>方法: 第3回アメリカ国民健康栄養調査参加者 17059人を本研究の対象とした。アルコール摂取量は、質問紙法により確認し、非飲酒、過去飲酒、少量飲酒 (1-6 drink/週)、中等量飲酒 (7-13 drink/週)、多量飲酒 (≥14 drink/週)に分類した。血圧は訪問調査時および移動健診車での調査時に測定し、ACC/AHA ガイドライン 2017に基づき、適正血圧 (<120/<80 mmHg)、血圧高値 (120-129/<80 mmHg)、ステージ1高血圧 (130-139/80-89 mmHg)およびステージ2高血圧 (≥140/≥90 mmHg)に分類した。ロジスティック回帰モデルを用い、アルコール摂取状況による高血圧有病オッズ比 (OR)および95%信頼区間 (CI)を算出した。なお、年齢、性別、収入および循環器疾患危険因子で調整した。</p> <p>結果: 非飲酒者に比べ、中等量飲酒者のステージ1 (OR 1.51, 95%CI 1.22-1.87)および2 (OR 1.55, 95%CI 1.20-2.00)の高血圧有病リスクは有意に高かった。同様に、多量飲酒者のステージ1 (OR 1.65, 95%CI 1.33-2.05)および2 (OR 2.46, 95%CI 1.93-3.14)の高血圧有病リスクも高かった。一方、アルコール摂取量と血圧高値との関連は認めなかった。</p> <p>結論: 1-2 drink/週といったごく少量のアルコール摂取であっても、ステージ1および2の高血圧有病リスクが高かった。今後は、アルコール摂取と高血圧リスクとの正の関連に関するメカニズムを検討する必要がある。</p>		